



令和4年12月12日号 大村市教育委員会

Diversity(多様性)Equity(公平性)Inclusion(包摂性)
多様な人たちが互いを認め合うとともに、それぞれの持ち味を發揮して生き生きと活躍し、皆が温かく包み込まれる社会をめざして

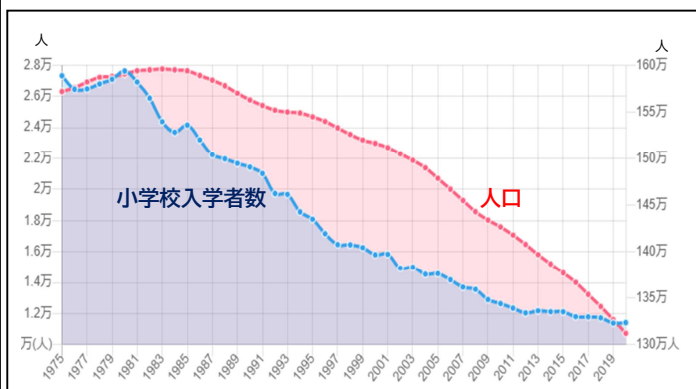


「学校規模の適正化」プロジェクトの進捗状況をお知らせします。



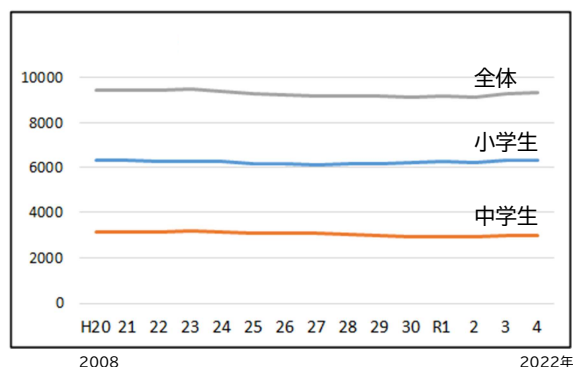
長崎県の人口と小学校入学者数の推移

県全体では、少子化が急激に進んでいます。



大村市立小中学校児童生徒数の推移

市内では、一学年1,000人でほぼ横ばいです。



全国的な規模適正化は、児童生徒数の急激な減少に伴うものであり、特に統廃合が進んでいます。しかし、本市ではここ15年間、児童生徒数が減少しておらず、今後もしばらくの間、現状維持が続く見込みです。また、九州新幹線西九州ルートの部分開通等により、今後の人口推移の予測が難しい状況にあります。このようなことや地域の状況を総合的に踏まえ、本市の学校規模適正化基本方針(案)を次のとおりとしました。

学校規模適正化基本方針(案)

【適正化を考える際の視点】

- ①各学校の特色を生かす。
- ②児童生徒数の推移を見ながら、継続的で段階的な見直しを行う。

【適正化の方向性】

- ①安易な廃校・分離統合は行わず、大規模校・小規模校それぞれのメリットを最大限に生かし、デメリットを最小限に低減する方策を考える。
- ②大規模校は、通学区域の見直しを行い、適正規模に近づける。
- ③小規模校は、特別転入学制度の拡充などの方策により、学校規模の維持を図る。



今後、地域の皆様と協議を重ねながら進めてまいりますので、ご理解、ご協力をお願いします。

学校規模適正化と同時に進めていること…

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)

コミュニティ・スクール(以下、CS)は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「**地域とともにある学校**」への転換を図るための有効な仕組みです。

CSでは、学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができます。

【学校運営協議会の主な役割】

- 校長が作成する学校運営の基本方針を承認する。
- 学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に対して述べる。
- 教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べる。

本市では、松原小、玖島中、三城小、西大村中が既にCSを導入しており、今後各中学校区に1校以上を導入する予定です。



学校施設の長寿命化計画

学校施設の長寿命化計画は、老朽化等の状況を把握し、地域における学校施設の役割等を考慮した上で、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減・予算の平準化を実現しつつ、学校施設に求められる機能を確保するための計画です。

おおまかには、竣工から**20年で大規模改造**(原状回復等)、**40年で長寿命化改修**(機能向上)、**60年で大規模改造**、**80年で改築**というイメージです。

本市の主な対象校舎は、次の学校です。

- 改造** R6～8玖島中
- 改造** R5鈴田小
- 改修** R5～6放虎原小
- 改築** R5～6福重小

(注意)様々な要因から変更になる可能性があります。



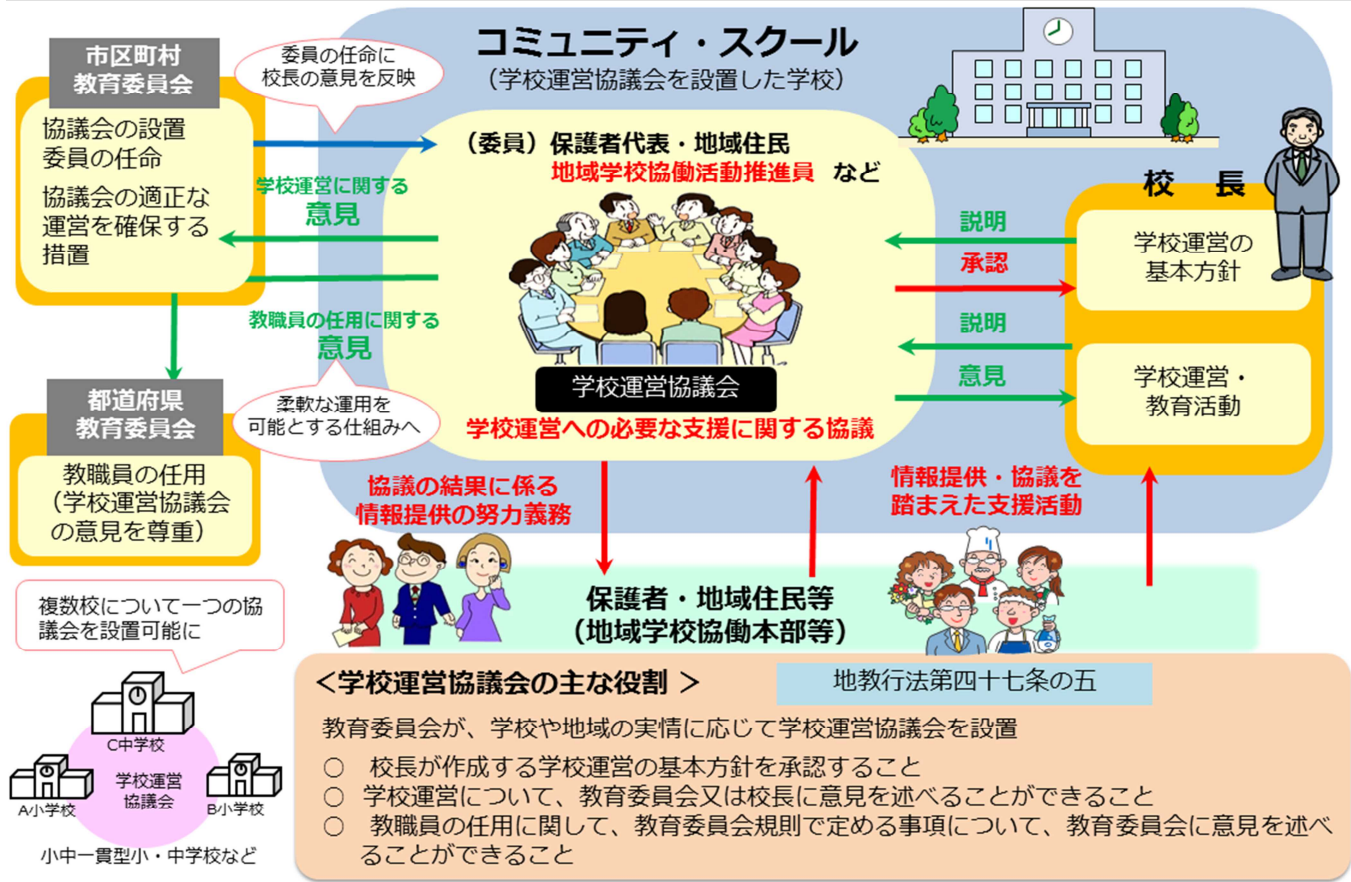
(裏面に参考資料を掲載しています)

コミュニティ・スクール

【出典】ウェブサイト「学校と地域でつくる学びの未来」はこちら→



コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の仕組み



学校施設の長寿命化計画

【出典】文科省「公立学校施設の老朽化対策の推進」はこちら→

